2021年12月13日（月）全私学新聞

菅公学生服株式会社 Online Exhibition 2022 ミライカタライ トコトンタイカンをテーマにサテライト展示会 開催

ハイブリッドで多様な情報提供

KANKO
Online Exhibition 2022
ミライカタライ
―Next School Life―
Next School Life
Solution Contents
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
Diversity
New Item
Digital Technology

オンライン展示会トップページ

菅公学生服㈱（岡山県岡山市）は10月18日～12月10日、オンライン展示会「Online Exhibition 2022 ミライカタライ―Next School Life―」と、「トコトンタイカン」をテーマとするリアルなサテライト展示会を開催した。昨年に続く2回目の開催となったオンライン展示会のテーマには、予測不可能な時代にあって、子供たちの未来のために、みんなが語り合うことが求められているとの思いを込めた。サテライト展示会は体感をキーワードに制服、体操服、教育コンテンツなどを一貫して紹介。コロナ禍においてもハイブリッドな形で先生方へのさまざまな情報提供を実現した。

オンライン展示会

パネルディスカッション 五つのテーマで語らう

パネルディスカッションは未来の学校、教育で重要な五つのテーマについて、有識者や教育現場の人々が「語らう」コーナーとした。

「LGBTQのその先～これからのダイバーシティ教育について考える～」では、ダイバーシティ教育に携わる校長と教員、俳優・講師で「乙女塾」の創立者である西原さつき氏、岡山ジェンダークリニックの医師でGID（性同一性障害）学会理事長なども務める中塚幹也氏が自身の取り組みなどを紹介。制服のモデルチェンジ（MC）などの体験談を通してヒントを提供した。

「教育現場で取り組むSDGs～事例から学ぶSDGsのファーストステップ～」では、SDGs達成に向けて活動している一般社団法人グローバル教育推進プロジェクトの辰野まどか代表理事と、SDGsを実践する教員2人がSDGsに関わって生まれた自身の変容や取り組み事例などを話し合った。先生方の言葉からは、SDGsを身近に感じることができ、取り組みの第一歩を踏み出すきっかけとなる内容となった。

「探究ってなんだっけ？視点を変えて教育活動を見直そう」では、キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会の小寺良介事務局長と、探究授業を行っている教員3人が課題を整理して取り組み事例を説明。「外部人材の活用は生徒が社会に出たときに必要となる学びが多い」などの考えが示された。

「ミライにつなぐ部活の在り方～部活動で育つ選ばれる力～」では、岡山大学全学教育学生支援機構の中山芳一准教授が非認知能力の観点から部活動で育まれるエンプロイアビリティー（社会に求められる力）をひもといたほか、パネリストの現場の校長、教員が部活動での子供たちとの関わり方などを解説した。

「ドラゴン桜で読み解く主体性を育む学びとは（学びに向かうメンタルの力）」では、現役東大生で「ドラゴン桜2」編集担当も務めた㈱カルペ・ディエムの西岡壱誠代表と中山准教授が脚本裏話や学びに向かう主体性の育み方、登場人物の言動、東大の受験問題などを語り合った。

ミライカタライ
D 学校での取組体験

未来の学校・教育をテーマとした、有識者や教育関係者によるパネルディスカッション

カンコー学生工学研究所 学校と子供の未来を考察

カンコー学生工学研究所のコーナーは専門家とカンコーの研究員が五つのテーマに関して対談形式で「語らい」ながら未来を考察した。

テーマの一つである、チームの中の自分らしさについては、アーティスト等として活躍する多くの卒業生を輩出してきたEXPG STUDIO BY LDH設立のEXPG高等学院の教務である北御門氏、本田氏に自分らしさとチームという相反するものを融合するLDH流の育成メソッドを聞いた。

清潔な学校生活をサポートする新技術に関しては、DR.C医薬㈱の岡崎成実社長と対談した。同社の「ハイドロ銀チタンテクノロジー」を活用して、臭いのもととなる不衛生タンパク質を分解する機能、制服・体操服でできる対策について考えた。

性教育をテーマとする対談では、ユニ・チャーム㈱でソフィのブランドマネージャーを務める長井千香子氏と生理用品の進化、学校生活での困り事について話し合い、生理を通して未来の社会について考察した。

姿勢をテーマとする対談では、子供たちの快適、健康を守るために良い姿勢の習慣化が必要との観点から、㈱ピーエーエスの作業療法士・シーティングデザイナー、野村寿子氏に良い姿勢が心身へもたらす効果などについて聞いた。

衣類からアプローチする熱中症対策の効果と最新情報では、菅公学生服と熱中症を防止するウェアラブルデバイス「hitoe」を共同開発している東レ㈱機能繊維事業部の勅使河原崇氏と衣類でできる熱中症対策などを語り合った。ウェアラブルデバイスの最新情報を提供したほか、その可能性にも言及した。

カンコー学生工学研究所
×
DRC医薬
清潔な学校生活をサポートする新技術

さまざまな分野のエキスパート×カンコー学生工学研究員による対談

制服と体操服の展示ブース 先生方の生の声を発信

制服と体操服の展示ブースでは、先生方が抱えるさまざまな課題に対して、菅公学生服が持つ解決策などを提示した。

制服については、動くデザインカタログ動画と、課題別「採用してよかった！」生の声（実例校インタビュー）を用意。動くデザインカタログ動画はKANKO、ELLE ECOLEの新作を紹介し、その魅力を伝える情報を発信した。

課題別「採用してよかった！」生の声では、同社の制服を採用した学校の先生にMCの背景や効果を聞き、その内容を紹介した。多様性に対応した事例や、学校の独自性を打ち出した事例など多様なケースを示した。

体操服も動画でブランド別に新商品を紹介した。KANKO PREMIUM、KANKO NORMCORE、KANKO×Phiten、Reebokのブランド担当者が対談形式で新商品のコンセプトやポイントを説明し、視聴するだけで新商品を理解できる内容とした。

また、同社の体操服を採用した実例校インタビュー動画で同社の体操服の優位性や、子供たちが気に入っていることなどを先生の生の声として届けた。

教育サポートに関して ひとづくり支援の情報提供

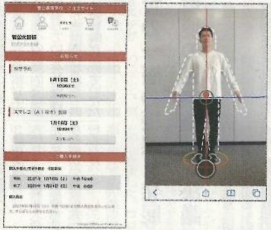
菅公学生服が「ものづくりに加えてひとづくり」との考えから推進している教育サポートに関しては、▽同社のSDGsの取り組みを通じて子供たちが学ぶ「SDGsプログラム」▽制服の洗い方を含め、今後の自立した生活で必要な洗濯の知識を教える「洗濯授業」▽「着こなし」に加え、生徒の徳育の一環という視点からの「身だしなみ」など、将来的にも役立つコンテンツ「衣塾」▽同社の創業の地であり最も歴史がある倉敷工場をオンラインで見学できる「オンライン工場見学」を紹介した。

また、カンコーマナボネクト㈱が提供しているメニューとして▽生徒運営のYouTubeチャンネルによって学校の魅力を生徒目線で再発見・発信するプログラム「School YouTube」▽生徒の自己肯定感やモチベーションを高めるプログラム「Ancs（アンクス）」▽部活動サポートツールで生徒の自分で考える力を育み、指導者が子供たちの成長を見取ることを可能にする「部活プランナー」▽「非認知能力」と呼ばれるコミュニケーション力などの数値化できない力を育むために行っている研修などのサポートの内容や情報を提示した。

アフターサービスコーナー スマート採寸・ECサイト紹介

アフターサービスのコーナーでは、新サービスのスマート採寸や学校別のECサイトを紹介した。コロナ禍で学校での採寸が難しい状況にあることに対応して採寸から購入までをネットで完結できるシステムで「従来の採寸のデメリットを解消する」と強調した。

また、広報活動の支援として、イラストポスターによる発信や、ARやVRを使った学校案内等のデジタルツール製作といったサービスを展開していることも提示したほか、コロナ禍の学校採寸における同社の対策も説明した。工場の動画などを使用して高品質で安心・安全な制服を届けていることにも言及した。



自宅で採寸から決済までできる「スマート採寸」

サテライト展示会

さまざまな多様性に対応するユニフォームを提案

軽量感があり防風性が高い KANKO PREMIUMの体操服

東京・東日本橋のショールームで開催したサテライト展示会は、先生方が予約制で来場するリアルな展示会で、制服と体操服の新作の展示や、課題解決のためのソリューションなどを提案した。

制服の展示ブースでは、多様性への対応が大きな課題となる中、性の多様性に配慮して制服をブレザーに変えた学校の事例を紹介するとともに、個性や国籍などさまざまな多様性を配慮したアイテムを提案した。

さらに、それぞれの学校らしさを制服のデザインに反映した事例を紹介した。学校のイメージをキーワード化して、それを制服で表現したときのデザインを展示した。

BEAMS SCHOOL product by KANKOのブースでは、実例校を紹介し、制服に加え、校内着や卒業記念品等の学校生活を彩るアイテムで統一した学校のイメージを打ち出せることを強調した。

ELLE ECOLEはフランス・パリのブランドという世界感を感じることができる商品群を展示し、その世界感を生かせる広報支援も紹介した。

このほか、動きやすく、しわになりにくいコンフォートニットや耐久性の高いコーデュラなどの素材を体感できるブースも用意した。

試着することで動きやすさを体感

体操服については、四つのブランドと、夏物スタイルを提案。KANKO×Phitenのブースでは、「身体能力の解放」をコンセプトとするATHLETE MODELを紹介。これは来春から始動する新モデルで動きやすくリラックスして体育に取り組むことができる。来場者は試着して、その動きやすさを体感した。

Reebokは、ゲームチェンジャーをコンセプトに2020年春、21年夏の投入商品を展示。

KANKO NORMCOREはマジカルをコンセプトに22年春新モデルを提案した。新モデルはポケッタブル仕様で体操服自体がコンパクトにまとまり、荷物の多い生徒の利便性向上を図っている。

KANKO PREMIUMは21年春投入商品、22年春追加の新商品を展示した。軽量な素材を使用することで着心地が優れている一方、防風性が高いことを実験で体感できるようにした。

夏の体操服スタイルとしては、2020年に透けない白シャツとしてグッドデザイン賞ベスト100を獲得したMIENNEシリーズ、耐久性と着心地が向上した新商品Halflexなどを提案した。

360度展望可能な VR学校案内体感

サテライト展示会では、来場者がスマート採寸・ECサイトを体感できるようにした。広報支援に関しては、実際のポスターと、モデルとなった制服を展示したことに加え、VR学校案内の実例を紹介し、360度見渡せる学校案内を体感できるブースを用意した。

また、SDGsに貢献する制服・体操服や、さまざまな学校や自治体との連携プロジェクトも紹介した。